

SORA

web magazine 2016.feb. vol.68

Anilao

Philippines

Photo & Text: Yasuaki Kagii

フィリピンの中で、最も古いダイビングサイトであるアニラオ。セブとはまた違った生物層で、人気を誇る。アニラオの魅力は、多彩な水中生物たち。例えば、ハナダイを例に挙げると、キンギョハナダイ、ケラマハナダイ、スマレナガハナダイ、ルソンハナダイ、フトモイなどと切りがない。また珍種も多く、ボロカサゴ、コールマンシュリンプ、ツノカサゴ、ウナギギンポ、そして可愛いウミウシなどマクロ派ダイバーは一気にアイドル種に会えてしまう。さらに魅力のひとつとして、安全にゆっくり観察できるということ。潮流もそれほどなく、のんびりダイビングできる。アニラオのポイントは傾斜の緩やかなポイントが多く、各水深にいる生物を楽しむことができる。安全停止も、生き物を観察しながらできるのも嬉しい。マクロ天国と言いきるよりは、天然の水族館と表現した方が良いかもしれない。そして最後に、魅力のアニラオリゾートを紹介。

MAP
CLICK!

アニラオは、魚の数、種類の多さ、
そして、見やすさという点では天然の水族館だ！

S 驚き
Surprise

Anilao
アニラオ Philippines

ガイドさんにウミウシをリクエストしてみたら!
ウミウシ天国だった!



tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく



S驚き Surprise

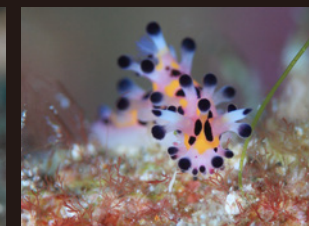
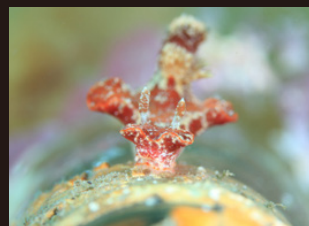
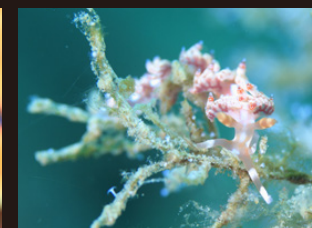
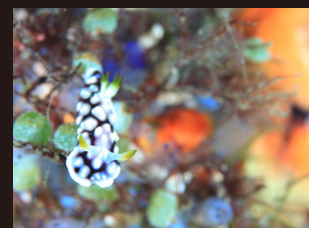


Anilao

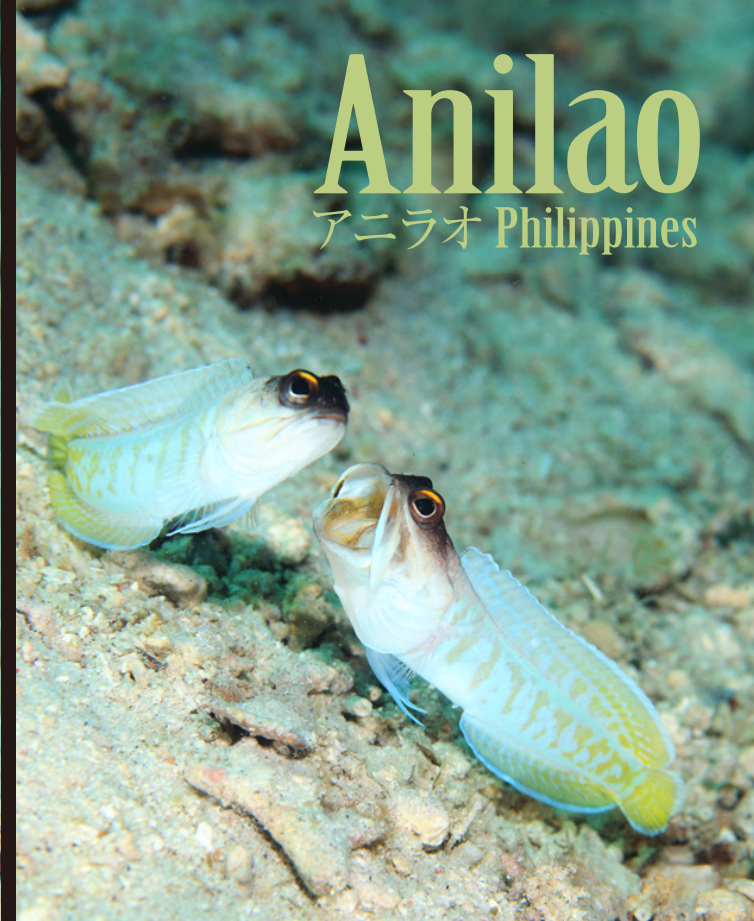
アニラオ Philippines

ガイドさんとは、見てる世界が違うのかも…

ガイドさんに、「この生き物が見たい!」と特定の生き物を指すリクエストはしたことがほとんどない。どちらかというと、ガイドさんが見せたい今一番旬な生き物、また、その海の代表的な生き物を見せてもらうことがほとんど。今回は、個人的な理由もあり、「ウミウシ」をリクエスト。あるウミウシの研究者の方から、「アニラオはウミウシの種類が豊富」と聞いていたのも、このリクエストを後押ししてくれた。今回は、ヴィラ・マグダレナとパシフィコアズールのガイドさんにそれぞれウミウシを見せて欲しいとリクエスト。すると凄いですね! どんどんとウミウシを見つけてくれる。見たこともない種類はもちろんのこと、これでもウミウシ?と思える個体まで。また、あまりにも小さいのを見せてくれるが、実際に撮影しているときは、どっちが頭かわからないサイズのもあって…。後で、PC で確認して、やっとうどういう状態だったのかがわかったものもあった…。そんなウミウシでも本当に宝石のように美しい。また、アニラオは海底環境も様々で色々な色と一緒にウミウシを撮影できる。例えば、ウミシダと絡んでいるウミウシ。「なんでそこに居るの?」と突っ込みたくなる個体もちらほら。それにしても、何の変哲もない海底からどんどんウミウシを見つけてくれるガイドの目は、一体どうなっているのでしょうか? まるで見ている世界が違うように思える。



驚き
Surprise



Anilao
アニラオ Philippines

ゴールドスペックジョーフィッシュの 喧嘩だ！ 喧嘩だ！

ダリアウトで人工物に付着するホヤなど楽しんだ後、リーフに戻って浅瀬を散策。水深10mほどで、ガイドさんが指差す方向を見ると、ひとつの巣穴からゴールドスペックジョーフィッシュが二匹も顔を出している。1匹が時折、大きな口を開けているから、何かペアで求愛をしているのかな?とカメラを構えて、何か始まるのではと期待しながら待っていた。ずっと待っていた。この個体を見つけたタイミングでもうダイブタイムは1時間ほどだったので、これは長丁場になりそうだと気を引きしめた。しかし待てど暮らせど、何も変化しない。少し遠くで他の生き物を探しているガイドさんの方を見ると、すーっとこちらにやって来て、巣穴から1匹のジョーフィッシュを誘い出した。その1匹が近く穴に入ったかと思うと、また先ほどの穴へ。そうするとまだ穴に居るもう1匹が大きな口を開けて威嚇する。そのシーンが面白くて、撮影熱も上がる。後で状況を聞いてみると、「あの2個体は、まだ若いオス同士でした。きっとあの穴にもう1匹がうまく入り込んで、横並びで穴に居るときは追い出すことができて、出た瞬間に、これは俺の穴だ!と追い払ったようです」とのことだった。どんな展開が起こるのだろうと期待しながら海底にへばりついて生き物観察…。彼らをより身近に感じる。



tsumi-shima

We
World explorer





ベツレヘム

2つの島の間にあり、潮通しが良いので、ウミウシなどのマクロの生き物が濃い。浅瀬から水深を下げて、驚いたのは、人間生活のゴミの多さ。確かに様々なゴミがあるが、それに負けないくらい魚影も濃い。潮当たりの良い場所では、ルソンイトヒキベラやアンギュラーフラッシュャー、クジャクベラなどがみられた。2015年、7月からボロカサゴが数個体も出現して人気を集めた。



マト

緩やかな傾斜の砂地が広がるポイントで、コールマンシュリンプがたくさん見つかる。水温が下がるとニシキフウライウオの姿も見かける。浅瀬のカラフルな壁では、オレンジリーフゴビーやカエルアンコウ、ウミウシが見つかるので、とても楽しい。



ハイディポイント

マイニットスクールの隣のポイント。砂地のポイントで、シーズンによっては、イッポンテグリの幼魚が多く、見ていてとても可愛い。面白かったのはミジンベニハゼ。ケヤリの管に産卵するのだが、アニラオでは、管の外側に卵を産みつけるので、ミジンベニハゼが、一生懸命に卵をお世話にする様子が簡単に見られる。あんまりたくさんのダイビングサービスが潜っていないので、環境もあまり変化していない。



Ocean

シークレットガーデン

マクロで有名なポイント。緩やかな傾斜に、ウミシダやソフトコーラルなどが点在する。何の変哲もない砂地だが、じっくり見て行くと、ウミウシなどのマクロの生き物の宝庫だと気がつく。浅瀬に戻り、安全停止をしながら生き物を探していると、ウナギギンボが泳いでいた。

ダイブソラナ

これまでは、ベラと言えば、バスラが有名だったが、ダイブソラナでもベラのパラダイスが発見されている。見られるベラは、クジャクベラ、アンギュラーフラッシャー、ラインスポットフラッシャー、イトヒキベラ、ラボックスラスなど見られる。ガレ場で、混合しながら、フラッシングしている。

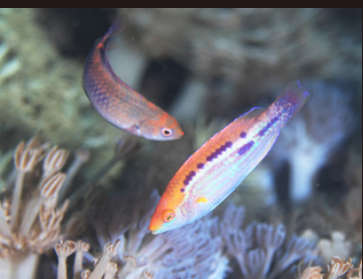
Anilao

アニラオ Philippines

まだまだあるぞ！ アニラオの好ポイント！

ダリルアウト

アニラオで唯一のレックポイント。昔のレストランが海底に沈んでいる。沈んだ人工物の構造が閉塞空間ではないので、明るく誰でも入れる。人工物の下にはツバメウオが群れ、定番のマクロの生き物では、クダゴンベ、ハダカハオコゼ、カエルアンコウ、ジョーフィッシュ、ミスジリュウキュウスズメダイ、ニチリンダテハゼが見られる。この人工物には、とにかくホヤがたくさん付着している。それは本当に摩訶不思議な世界で、そのホヤを上手く利用して、写真を撮ると、これまたアニラオらしい特徴のある写真が撮影できる。



Rロマンス Romance

ベアトリスにまた潜りたい!

今回、アニラオの中でも再確認したポイントが、ベアトリス。以前にも潜ったことはあったが、キンギョハナダイの群れが印象的だったことは覚えているが、それほど再訪したいと思っていたポイントではなかった。今回は、少し潮の流れが早くなる前のタイミングで潜り込ん

だ。そうすると海底を彩るサンゴなどがとても華やかで、キンギョハナダイたちも潮の流れに影響されてまとまって見応えが十分。キノコのようなホヤがそこに群棲していて、世界の他の海では見ない海中景観がそこにあった。とにかく海

中は華やかで、どこを切り取って良いのか? ずっと悩みながら撮影していた。色彩が、生命の躍動や

輝きを表現していた。また細かく見ていくと、ウミウシの種類も多く、またお腹に卵を持つモンハナシャコにも出会った。ダイビングの後半で、「すごいな!」と思ったのが、スリパチカイメンの表面を歩いていたウミウシ。こんな所にいるウミウシは見たことがないと楽しく撮影。

アニラオのポイントは、潮流によってまた違った表情を見せてくれる。今回のダイビングで、私はこのポイントに潜るために、またアニラオに戻ってきたいと心から思った。

Anilao

アニラオ Philippines



A 行動 Action

アニラオの新しい日本人リゾート アニラオ・ヴィラ・マグダレナ・ダイブ・リゾート!

Anilao

アニラオ Philippines

アニラオ・ヴィラ・マグダレナ・ダイブ・リゾート 通称『ヴィラ・マグダレナ』

2014年4月にソフトオープン、11月にグランドオープンしたダイバーズリゾート。ゲストはほぼ100%ダイバー。コンセプトは、「どんなレベルのダイバーにも、アニラオの海を楽しんでもらえるように快適な環境を提供する」。アニラオ歴11年の大沢義生さんと奥さんの裕美子さんの日本人夫婦が経営。オーナー夫妻が細かいサービスまで気を回し、またホスピタリティのあるフィリピン人スタッフが、丁寧にサービスをしていく。大沢さんは「元々、親切心が旺盛なフィリピン人スタッフから温かいものを持って帰国して欲しい」と話してくれた。客室は、計16室。天然素材を利用するというよりは、女性ゲストにもリラックスしてもらえるように、出来るだけ虫が出ない素材を選択し、室内は白を基調にした清潔感を大切にしている。海の見えるシービュー2部屋。広くて快適なコンフォート（デラックス）4部屋。リーズナブルで快適で、コンパクトにまとめられたスタンダード10部屋の3つのカテゴリーがある。エアコン、シャワー、トイレを完備。スタンダード以外には、冷蔵庫あり。またダイバーのためにコンセント数がとても多いのが嬉しい。



A 行動 Action

海を見渡せる明るい雰囲気のレストランエリア。大盛りビュッフェではなく、ゲストのキャパに合わせた大皿料理。基本的には、日本で食べる機会がすくないフィリピン料理。味付けはとても美味しく、ダイビングと同じくらい楽しみのひとつだった。またツルムラサキなどの自家栽培している野菜も提供しながら、野菜を多めにし、日本人は食べられないだろう料理は省いている。週末、マニラからの駐在員が多い時は、日本食テイストのものを出すことも多く、串カツやキーマカレーは人気!

ダイビングスタイル

メインのガイドは、フィリピン人のロナルドさん、ダンディさん。彼の眼力には脱帽。オーナーの大沢さんが、ガイド陣とのコミュニケーションを密に取り、いつでも旬な生き物を提供できるようにオーガナイズする。使用するのはバンカーボートで、ひとつのボートにゲストは最大6名まで、ガイド1名。繁忙期にはボートは6隻出る。一番遠いポイントまで、約30分。近いポイントは2、3分で行くことができる。ヴィラ マグダレナはアニラオのダイビングエリアのちょうど真ん中に位置するので、全てのポイントまで行きやすい。午前中に2ダイブ、午後はオプションで1ダイブもしくは2ダイブ。更に追加でサンセットもしくはナイトダイブをリクエストベースで催行。最大潜水時間は1時間まで。見たい魚やダイビングスタイルなどは、より多くのゲストのリクエストに出来る限り対応している。専用の栈橋からバンカーボートに乗り込むので楽チンだ。また、フィリピン人のスタッフがいるので、障害を持ったダイバーの方にもケアできるようなサービスも、これまで以上に力を入れたいとのこと。



Anilao

アニラオ Philippines



tsumi-shima   

ダイバーの夢をつみあげていく

A 行動 Action

日本人経営の老舗のダイブリゾート パシフィコアズール・リゾート!

Anilao

アニラオ Philippines

パシフィコアズール・リゾート

日本人向けでは、アニラオでも老舗のダイブリゾート。これまでにたくさんの日本人ダイバーをアニラオの海の虜にしてきた。海岸線に面した広い敷地のリゾートで、緑豊かな環境の中にバンガローやダイビングセンターがある。ダイビングセンターの前のスペースも広く、何かとのんびりとした空間がある。コンセプトは、「ゆっくり、じっくり、ゆったり。せわしなさを排除する。」とフィリピン歴15年のマネージャーの益田明さんが教えてくれた。それはダイビングスタイルはもちろん、パシフィコアズール・リゾートでの滞在は是非リラックスして欲しいとのこと。敷地内には、マンゴーの木が15本ほど生えている。2月から3月シーズンで、新鮮なマンゴーシェイクも一押しとのこと。

客室は、フィリピン風のコテージのデラックスルームが8部屋。スタンダードルームが11部屋。計19部屋。エアコン、シャワー、トイレ完備。冷蔵庫はデラックスルームのみ。室内は清潔で広く、荷物の多いダイバーには嬉しい。スイートルームもあり、キッチンのある広いダイニングと客室2部屋で、1棟貸しもある。ダイバー仲間でワイワイと借りるのもお得かもしれない。



tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく



A 行動 Action

中央にあるロビーは、ダイニング&多目的ルーム。ここで毎回の食事を食べたり、お茶などをして寛いだり、ガイドさんやスタッフと海の話で盛り上がりたり。調度品は、竹などの天然素材でできていて、ナチュラルテイストで落ち着きがある。食事は基本的にビュッフェで、インターナショナルな料理を日本人好みの味付けにアレンジしている。フィリピン人の女性シェフが、毎回美味しい料理を提供してくれる。野菜も多めに用意されているのも嬉しい。



ダイビングスタイル

パシフィコアズール・リゾートは、それぞれのダイブポイントまで近く、ボートで約5分から30分以内で、主要なポイントに行ける。ゲストの要望に合わせての配船、ガイドのアレンジをする。例えば、マクロ派、フォト派、ビデオ派、初級者、中級者などできるだけグループ分けをするようにしている。ガイド陣は、パシフィコアズールで15年以上の経験があり、日本人ダイバーの対応に慣れているフィリピン人ガイドが担当。現在は、ニックやベス、ジョエルが活躍している。生き物をじっくり見られるようなダイビングを好むゲストが多く、また、フォト派やビデオ派に対しても、ガイドはゆっくりとしたダイビングを心がける。また、水中写真に関しては、増田さんが撮り方のアドバイスもしてくれる。基本は、午前2本、午後1本。最大5名までの1グループで、50～60分以内のダイビング。しかし、ゲストのリクエストベースで、早朝、サンセット、ナイトなど、1日最大で6本潜水することができる。サンセットの魅力は、ニシキテグリの産卵や、後半はナイトダイビングを楽しむことができること。ナイトダイビングの魅力は、昼間見られない生き物。例えば、ヘアリーフロッグフィッシュは夜の方が見つけ易いし、エビカニ系も多いので、是非。



tsumi-shima
ダイバーの夢をつまみつけていく島



Anilao

アニラオ Philippines